

世界一幸せな国の地域づくりに学ぶ シンポジウム in 飯舘2010

国民が幸せな社会システムとは？

～デンマークの福祉・教育・行政の専門家から学ぶ～

5/12

デンマークから講師を招いてシンポジウムを開催

村では、南相馬市との定住自立圏形成協定施行を記念して、「世界一幸せな国の地域づくりに学ぶシンポジウム in 飯舘2010」をいちはん館で開催しました。昨年引き続き、「幸福度世界



▲幸せな地域づくりを学んだシンポジウム

「」のデンマーク王国から幸せな地域づくりを学ぶことを目的に開催されたこのシンポジウムには、村内外から約100人が参加しました。いたて福祉会にデンマーク製のチップボイラーが導入されたこと、若妻の翼でもデンマークを訪問したことがあること、6年目に入った「ま

でいライブ」を推進するうえで、デンマークの「資源節約」「お互い様」の考え方に学ぶところが多しことなどが、今回のシンポジウム開催のきっかけとなりました。今回は福祉、教育、行政の専門家が、それぞれの分野から国民に幸せをもたらす様々な取り組みや、社会のシステムなどについて基調講演を行いました。その後行われた意見

交換では、デンマークの「公平」の考え方は、「均等に分けること」ではなく「必要人に必要なだけ分けること」であることや、デンマークでは年金制度などが大変充実していて、障がいを持った方や高齢者も安心して暮らしているような国が何重にも救済制度を張り巡らせていることなどが話されました。

南相馬市との定住自立圏形成協定

平成21年10月6日、飯舘村と南相馬市との間に協定が交わされました。

協定は、医療、教育、環境をはじめ様々な分野でお互いが協力しながら、「定住」「自立」のために安心で活力のある地域を作っていくことを目的としています。

この協定は、平成22年4月1日から「地域共生ビジョン」に沿って運用が開始されました。



▲千葉氏はデンマークに住み、日本からの福祉研修生などを受け入れています。著書には「世界一幸せな国デンマークの暮らし方」があります。

基調講演Ⅰ

「デンマークの福祉」

千葉 忠夫 氏

幸せな国とは、住む人が生活しやすい国であり、突き詰めれば、「民主主義の国」ということになり、「民主主義」とは、単なる言葉ではなく国民が自由、平等で共生、連帯して生きていけることです。

では実際にこの幸せな国をつくるためには何が必要でしょうか。

ひとつは、選挙で良い政策をつくる人を選ぶことです。そのためには、政治に興味を持たなければなりません。

また、福祉にかかるお金をどう集めるかということも大切です。これは税金で集めますが、「必要なお金をみんなで出し合う」という考え方ができるかがとても重要です。この「お互い様」の考え方を身に付けるためには競争原理にとられない教育が必要です。

基調講演Ⅱ

「デンマークの教育」

ローナ ホルム アンデルセン 氏

デンマークには98の自治体に1605校の「国民学校」と呼ばれる小中一貫の学校があります。

学校では「国民学校法」に基づいて教育を行います。その第1条には親と学校が協力して教育を行い、子どもたちの人格発達に努力することが明記されています。

デンマークでは保護者と学校が協力して子どもを教育します。学校と保護者が一緒になって子どもたちに民主主義の考え方をしっかり身に付けさせています。この民主主義の考え方が福祉国家には大切なのです。また、デンマークには教育委員会という理学会がありません。その代わり学校運営委員会という理事会有り、学校、保護者の代表、生徒の代表が学校の運営方法について話し合っています。



▲講演を行うローナ氏。「国民学校」の生活は生徒が学校生活を行う手品などを行う「魔法使い」のような先生もいる。

基調講演Ⅲ

「デンマークにおける女性の社会参加」

ハンナ ラオリセン 氏

ハンナ氏が市議会議員に立候補しようと思っただけは社会を変えたいと思っただけです。

デンマークでは主婦が議員になるための障壁はありません。産休や育児について、国が保障しているからです。男性と女性は全く同じ権利を持つことで、性で差別されることがないからです。

しかし、議員という仕事は男女を問わず大変な仕事です。議員活動のための下準備は自分の仕事の合間に行います。女性議員が男性議員を説得できる仕事をするのはとても大変です。しかし、女性議員の方が社会福祉などのソフト面を考えるうえで男性議員よりも向いているように思います。日本の女性も政治活動にどんどん参加してほしいと思います。



▲ハンナ氏は今期9期目の市議会議員です。デンマークのミドルファーマー市副市長も務めています。良い政策を行ってれば市民に選ばれるとのこと。